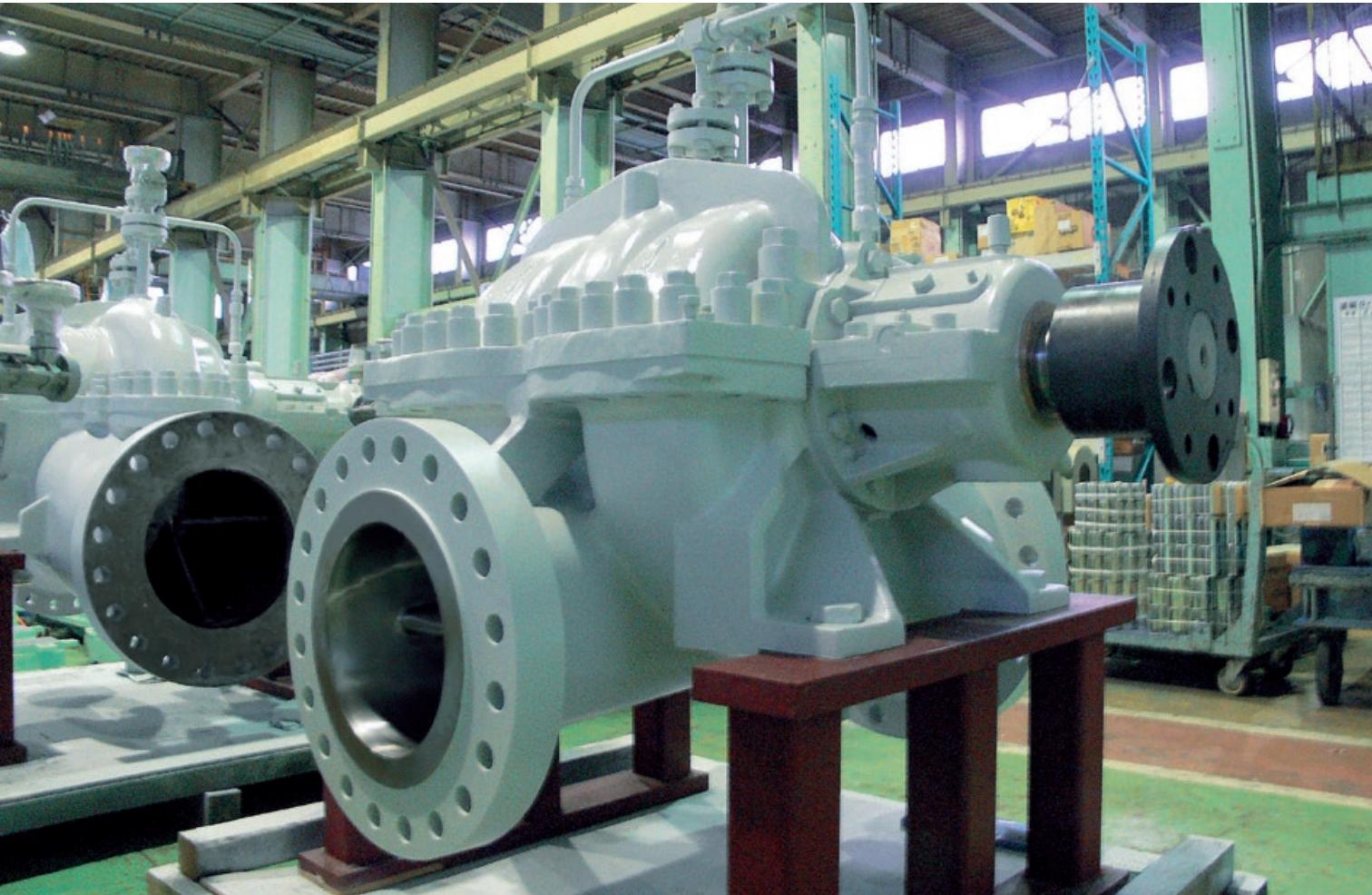


株主の皆様へ

第133期 中間報告書

平成25年4月1日から平成25年9月30日まで



株式会社 西島製作所

証券コード：6363

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素よりご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび当社第133期中間決算（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）を終えましたので、ここに第133期中間報告書をお届け申し上げます。

また、中間配当金につきましては、1株につき9円と決定いたしましたので、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成 25 年 12 月



代表取締役社長
原田 耕太郎

〔表紙写真〕

世界最大の海水淡水化プラントであるサウジアラビアの Ras Al Khair Desalination Plant 向け RO 高圧海水供給ポンプ

事業紹介

当社グループは、「ハイテクポンプ」、「プロジェクト」、「サービス」、「新エネルギー・環境」をドメインに、優れた製品・技術・サービスの提供を通じて社会に貢献しています。

ハイテクポンプ事業

発電や海水淡水化、化学、上・下水道、一般産業などのプラント向けのポンプとして、高度化・多様化するニーズにお応えするポンプを開発・提供しています。また、『ポンプ de エコ』をキーワードに高効率ポンプでプラントの省エネに貢献しています。



発電プラント用 ボイラ給水ポンプ



海水淡水化プラント用 高圧ポンプ

プロジェクト事業

ポンプ単体の提供だけでなく、ポンプ設備全体のEPC(設計・調達・建設)を行うコントラクターとして、上・下水道、かんがい、排水などのインフラ整備・拡充にも貢献しています。



上水道用 送水ポンプ場



かんがい用 ポンプ場

サービス事業

ポンプ設備をより長く、効率的にお使いいただくために、通常のメンテナンス業務だけでなく、ポンプが最大限の性能を発揮できるよう、様々なケースに応じた最適なソリューションを提案しています。



ポンプのオーバーホール



ポンプ設備の点検・診断

新エネルギー・環境事業

風力発電や小水力発電の導入に関し、設計・施工・メンテナンスに至るまで、総合的にお客様をサポートし、再生可能エネルギーの利用による低炭素社会への転換に貢献しています。



1,500kW 風力発電システム



小水力発電システム(ポンプ逆転水車)

米国 FEDCO社(Fluid Equipment Development Company, LLC) との事業提携について

トリシマは、平成25年6月、米国FEDCO社(Fluid Equipment Development Company, LLC)の持分50%を取得しました。

FEDCO社は、海水淡水化システムで近年主流となっている逆浸透膜法(RO)に使用されるエネルギー回収装置向けターボチャージャーで世界トップシェアを占めており、小型のRO高圧ポンプも含めた回転機械分野でも高い技術力を有しているメーカーです。

トリシマとFEDCO社は、昨年6月に米国でオイル&ガス向けのポンプを製造する合併会社(Advanced Pumps International LLC)も設立しています。

今回のFEDCO社の持分50%取得は、両社が保有する世界トップクラスの回転機械技術により、『省エネ』『エネルギー回収』を特徴とする製品を競合他社に先駆けて投入し、あらゆる分野でグローバルに事業を加速させるためのさらに一歩踏み込んだ事業提携です。

これにより、大型から小型までフルラインの高圧ポンプとエネルギー回収装置をもつ世界唯一の企業ポジションの獲得、米国ポンプ市場への本格的参入、FEDCO社の卓越した企業体質を取り入れることによる業務改革を実現でき、グローバル市場でのさらなる事業の拡大を図っていきます。

FEDCO社のエネルギー回収装置(ターボチャージャー)については、8ページで紹介しています。



社名: Fluid Equipment Development Company, LLC

所在地: Monroe, MI, U.S.A.

代表者: Eli Oklejas, President

事業内容: 海水淡水化ROプラントにおける水のエネルギー回収装置(ターボチャージャー)及び中小型高圧ポンプの製造

エコポンプによる省エネ情報が満載！ エコポンプWEBサイト開設

トリシマが推進している『ポンプdeエコ』の活動をもっとたくさんの方に知っていただきたいという思いから、当社のエコポンプWEBサイトを新たに開設しました。

本サイトでは、当社エコポンプの特長はもちろん、省エネ事例や導入の流れ、サポート体制、エコポンプニュース、ポンプde省エネ講習会などの情報が満載です。

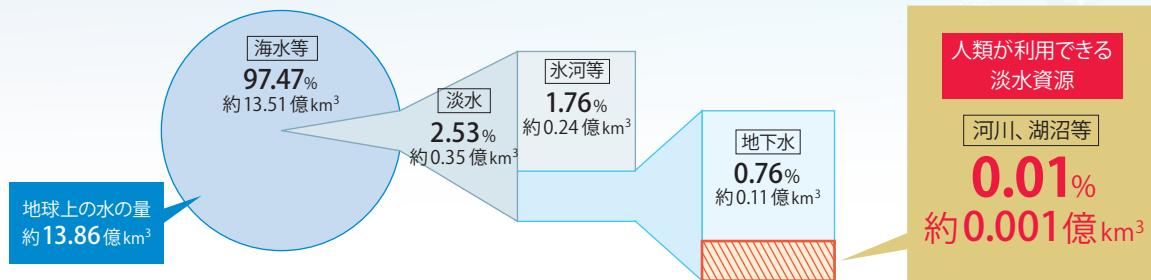
エコポンプ

検索



海水淡水化用ポンプのエキスパートとして、 世界的な水不足問題の解決に貢献。

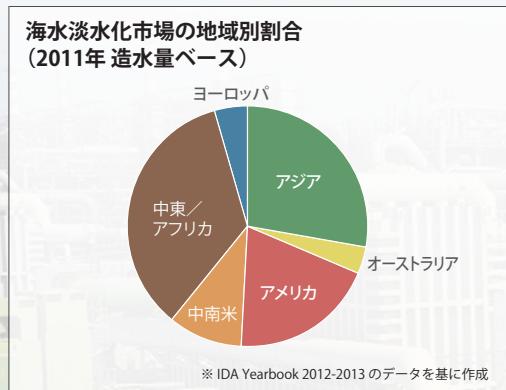
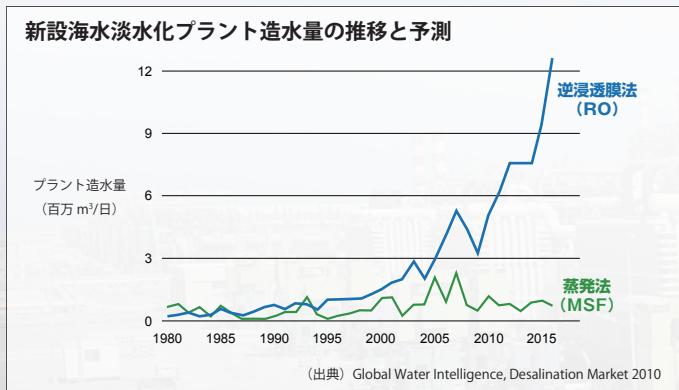
水の惑星と呼ばれる地球。しかし、地球上に存在する水の97.5%は海水で、淡水はわずか2.5%しかありません。また、人々の生活や産業に利用できる淡水はさらに少なく、水全体の0.01%にしか過ぎません。



※ 1. World Water Resources at the Beginning of 21st Century; I.A. Shiklomanov and John C. Rodda, 2003を基に国土交通省水資源部作成
 ※ 2. 南極大陸の地下水は含まれていない。
 (出典) 国土交通省土地・水資源局水資源部「平成22年度版日本の水資源」

世界では、もともと水資源に乏しい地域が多く、水不足が深刻な問題となっていますが、今後、人口の増加や新興国の経済発展により水の需要は増大し、現在よりも水不足がさらに深刻化すると予測されています。

その解決策として注目を集めているのが、海水淡水化システム。世界の海水淡水化市場は数年前より急速に拡大しており、中でも、逆浸透膜法(RO)の市場は今後も高い成長が予測されています。また、その市場も中東地域をはじめ、全世界に広がっています。



海水淡水化用ポンプの世界トップのサプライヤー

トリシマは、この海水淡水化分野において40年の実績があり、とくに水不足が深刻な中東地域をはじめ、北アフリカ、東南アジア、オーストラリアなど世界中に数多くのポンプを納入しています。

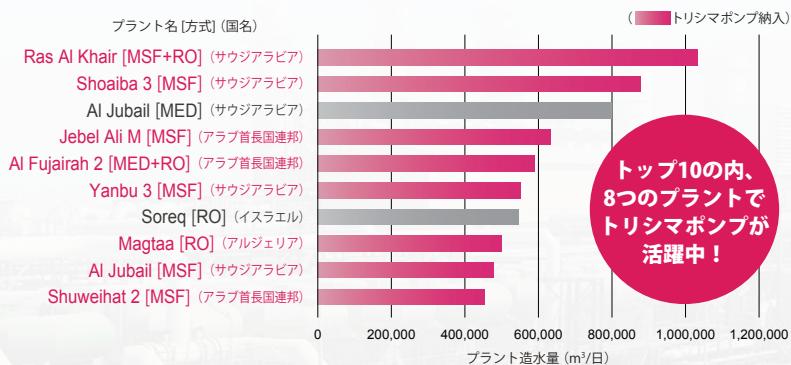
<中東・北アフリカ>



<アジア・オセアニア>



世界最大級の海水淡水化プラント 造水量トップ10 (建設中含む)



<中南米>



近年の海水淡水化市場の動向とプラントにおけるポンプの役割

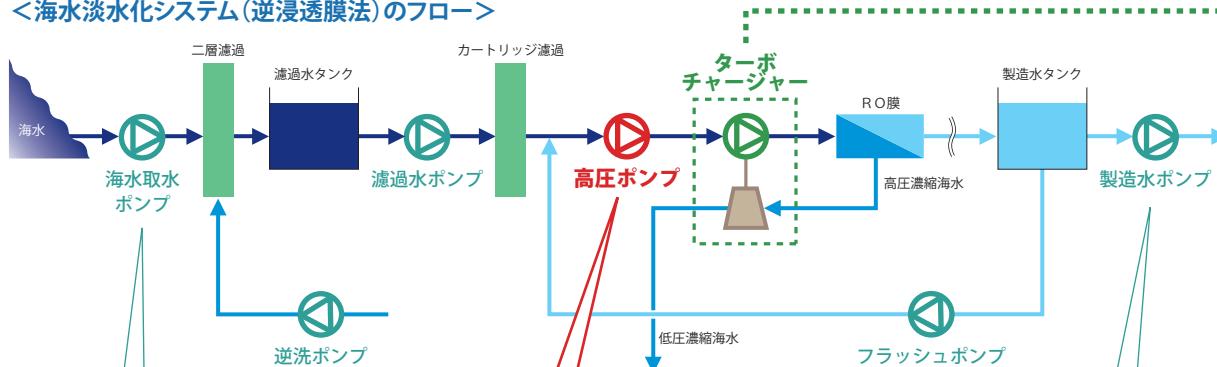
海水淡水化システムには逆浸透膜法(RO)、蒸発法(MSF)、多重効用法(MED)などの方式があり、その中でトリシマは、海水の取水から、淡水化する各種プロセス、製造水の送水まであらゆるポンプを提供しています。

近年の海水淡水化市場では、経済性(造水コスト)が比較的安価である逆浸透膜法(RO)が主流となってきており、今後の新規プラント造水量はこの方式を主体として年率30%で伸びると推定されています。

この逆浸透膜法(RO)プラントで心臓部を担うのは、RO膜へ海水を供給する高圧ポンプで、トリシマはサウジアラビアやアルジェリア、オーストラリアにある世界でも最大級のROプラントへ高効率の高圧ポンプを多数納入しています。



<海水淡水化システム(逆浸透膜法)のフロー>

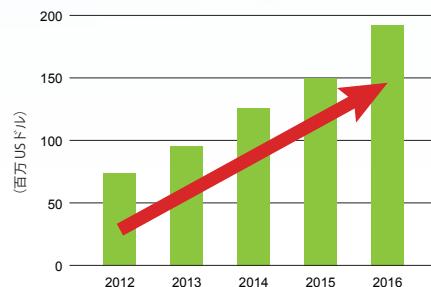


エネルギー回収装置(ターボチャージャー方式)について

エネルギー回収装置とは、逆浸透膜法(RO)の海水淡水化のプロセスで発生した余剰エネルギーを回収し再利用する装置で、ライフサイクルコストを削減できることから、RO市場での需要が急速に拡大しています。

エネルギー回収装置には、ターボチャージャー方式やペルトン水車方式、圧力変換方式などがありますが、2013年6月に事業提携したFEDCO社は、これらエネルギー回収装置の中でも構造がシンプルで導入・維持コストが他のエネルギー回収装置よりも安価なターボチャージャーを主力製品としており、サウジアラビア向けの大型ROプラントに連続して採用されるなど、急速に市場シェアを伸ばしています。

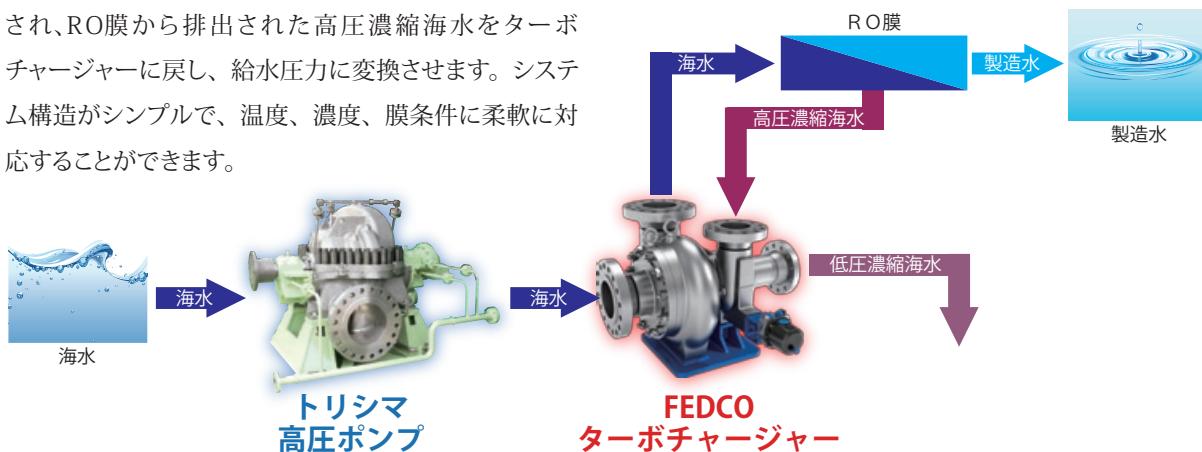
エネルギー回収装置の市場予測



※ Global Water Intelligence の資料を基に作成

<エネルギー回収装置(ターボチャージャー方式)のフロー>

ターボチャージャーは高圧ポンプとRO膜の間に設置され、RO膜から排出された高圧濃縮海水をターボチャージャーに戻し、給水圧力に変換させます。システム構造がシンプルで、温度、濃度、膜条件に柔軟に対応することができます。



営業の概況

経営成績

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国においては景気回復基調にあり、欧州においては一部に持ち直しの兆しが見られるものの、中国、インド等の新興国においては減速感が否めず、全体としては予断を許さない状況で推移しました。

わが国の経済においては、アベノミクス効果等により株価回復や円高是正が継続し、景気は緩やかに回復しつつあります。

当ポンプ業界におきましては、海外向けの水資源を中心としたインフラ整備や、エネルギー関連需要の動きは底堅く、また、国内公共投資の増加等があるものの、依然として厳しい価格競争下のもとで受注状況は推移しました。

当社グループの当第2四半期連結累計期間の受注高は29,047百万円（前年同四半期比11,017百万円増加）となりました。これを需要先別に見ますと官公需は8,930百万円（前年同四半期比2,190百万円増加）、国内民需は3,405百万円（前年同四半期比798百万円増加）、外需は16,711百万円

（前年同四半期比8,029百万円増加）となりました。

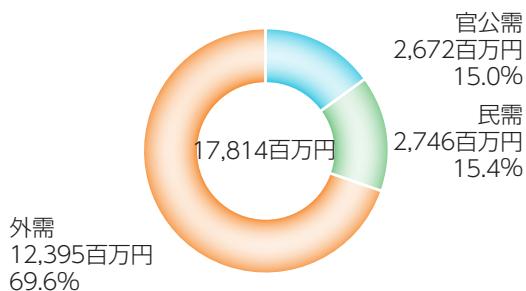
当第2四半期連結累計期間の売上高は17,814百万円（前年同四半期比1,340百万円減少）を計上し、当第2四半期末の受注残高として46,574百万円（前年同四半期末比7,358百万円増加）を第3四半期以降に繰り越すことになりました。

利益面については、当第2四半期連結累計期間の営業損失は901百万円（前年同四半期は営業損失1,039百万円）となり、経常損失は為替差益が203百万円発生した結果、721百万円（前年同四半期は経常損失884百万円）となり、四半期純損失は446百万円（前年同四半期は四半期純損失873百万円）となりました。

通期の見通し

平成26年3月期の業績予想につきましては、平成25年度を初年度とする3ヵ年経営計画の通り、受注高46,000百万円、売上高42,000百万円、営業利益1,000百万円、経常利益1,000百万円、当期純利益700百万円で、変更はございません。

平成25年度第2四半期連結累計期間 需要先別の売上高構成比



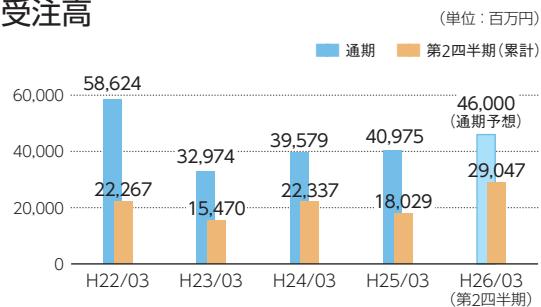
平成25年度第2四半期連結累計期間 需要先別の受注高、受注残高 (単位: 百万円)

需要先	受注高	構成比 (%)	受注残高	構成比 (%)
官 公 需	8,930	30.8	11,762	25.2
民 需	3,405	11.7	3,298	7.1
外 需	16,711	57.5	31,513	67.7
計	29,047	100.0	46,574	100.0

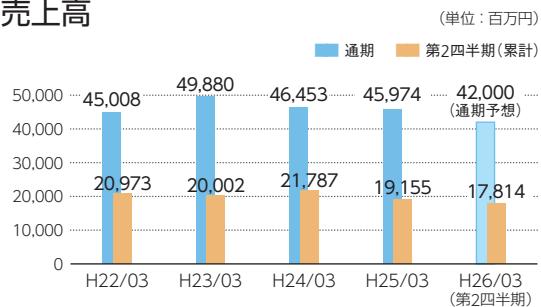
(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

財務ハイライト

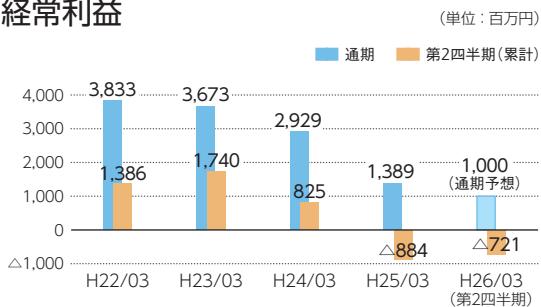
受注高



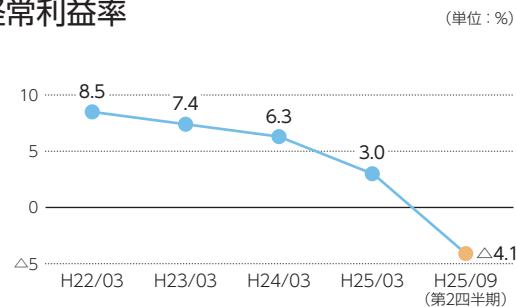
売上高



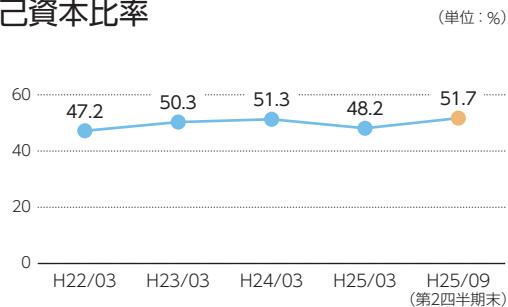
経常利益



経常利益率



自己資本比率



1株当たり純資産額



連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 平成25年9月30日現在	前第2四半期末 平成24年9月30日現在	前 期 末 平成25年3月31日現在	科目	当第2四半期末 平成25年9月30日現在	前第2四半期末 平成24年9月30日現在	前 期 末 平成25年3月31日現在
【資産の部】				【負債の部】			
流動資産	36,832	40,068	45,693	流動負債	19,208	20,861	24,606
現金及び預金	7,311	6,952	11,962	支払手形及び買掛金	7,006	9,177	12,014
受取手形及び売掛金	18,674	21,666	24,260	短期借入金	4,909	4,530	5,410
有価証券	700	—	—	未払法人税等	88	61	126
商品及び製品	502	218	250	前受金	2,991	3,844	2,452
仕掛品	5,495	6,219	4,711	賞与引当金	801	712	602
原材料及び貯蔵品	1,604	1,966	1,795	製品保証引当金	309	737	412
前渡金	677	543	582	工事損失引当金	136	450	217
繰延税金資産	1,196	1,699	749	その他	2,965	1,346	3,368
その他	805	888	1,495	固定負債	10,705	6,655	10,024
貸倒引当金	△ 135	△ 86	△ 113	長期借入金	8,312	4,226	7,671
固定資産	26,952	18,421	22,539	退職給付引当金	1,764	1,844	1,794
有形固定資産	11,195	9,360	9,844	役員退職慰労引当金	12	20	11
無形固定資産	2,375	790	2,044	その他	616	564	547
投資その他の資産	13,380	8,270	10,650	負債合計	29,914	27,516	34,630
投資有価証券	12,372	6,684	9,069	【純資産の部】			
その他	1,270	1,774	1,757	株主資本	31,733	30,828	32,389
貸倒引当金	△ 262	△ 187	△ 176	資本金	1,592	1,592	1,592
資産合計	63,784	58,489	68,232	資本剰余金	7,822	7,813	7,813
				利益剰余金	23,279	22,388	23,951
				自己株式	△ 961	△ 966	△ 968
				その他の包括利益累計額	1,242	△ 407	513
				その他有価証券評価差額金	1,202	△ 153	903
				繰延ヘッジ損益	△ 246	8	△ 285
				為替換算調整勘定	286	△ 262	△ 104
				新株予約権	87	78	90
				少数株主持分	806	473	607
				純資産合計	33,869	30,973	33,602
				負債純資産合計	63,784	58,489	68,232

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期(累計) 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	前第2四半期(累計) 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	前 期 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
売上高	17,814	19,155	45,974
売上原価	14,453	16,460	37,959
売上総利益	3,361	2,694	8,015
販売費及び一般管理費	4,263	3,734	7,497
営業利益又は営業損失(△)	△ 901	△ 1,039	517
営業外収益	443	436	1,191
営業外費用	263	281	319
経常利益又は経常損失(△)	△ 721	△ 884	1,389
特別利益	30	—	1
特別損失	19	647	76
税金等調整前四半期(当期)純利益 又は税金等調整前四半期純損失(△)	△ 711	△ 1,532	1,314
法人税等	△ 382	△ 655	274
少数株主損益調整前四半期(当期)純利益 又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△ 328	△ 876	1,039
少数株主利益又は 少数株主損失(△)	118	△ 2	95
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失(△)	△ 446	△ 873	943

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

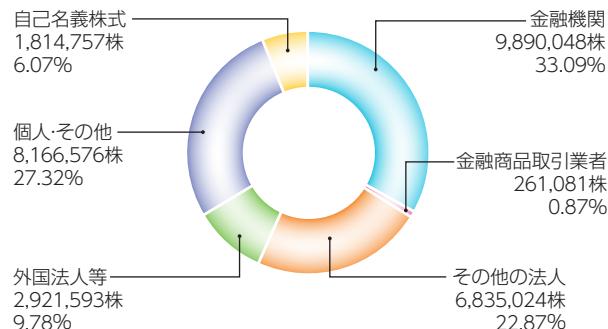
科目	当第2四半期(累計) 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	前第2四半期(累計) 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで	前 期 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	737	△ 50	3,513
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 5,431	△ 1,153	△ 3,966
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 275	579	4,356
現金及び現金同等物に 係る換算差額	141	46	528
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 4,827	△ 578	4,432
現金及び現金同等物の 期首残高	11,962	7,521	7,521
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	176	8	8
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	7,311	6,952	11,962

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社の概要 (平成25年9月30日現在)

商号	株式会社 西島製作所
創業	大正8年8月1日
設立	昭和3年4月20日
発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	29,889,079株
資本金	1,592,775,030円
株主数	9,697名
従業員数	803名
ホームページ	http://www.torishima.co.jp
事業所	
本社	大阪府高槻市宮田町一丁目1番8号
支社	東京
支店	大阪、九州（福岡市）、名古屋、札幌、仙台、 広島、高松、シンガポール、 中東（アラブ首長国連邦）、北米、サウジア ラビア
営業所	沖縄（那覇市）、佐賀、横浜、和歌山
出張所	宇部、熊本
海外事務所	北京（中国）、ドーハ（カタール）
工場	本社工場（大阪府高槻市）、九州工場（佐賀 県武雄市）
海外工場	インドネシア、天津（中国）
主要な子会社	株式会社九州トリシマ 西島ポンプ香港有限公司 株式会社風力エネルギー開発 西島ポンプ（天津）有限公司 トリシマ サービス ソリューションズ株式会社 ケーアールジー インダストリーズ株式会社 株式会社トリシマ・グナ エンジニアリング トリシマポンプ（インド）株式会社 トリシマ オーストラリア株式会社 トリシマ USA コーポレーション

所有者別株式分布状況



役員

代表取締役社長	原 田 耕 太 郎
代 表 取 締 役	藤 川 博 道
取 締 役	内 田 貞 雄
取 締 役	久 島 哲 也
取 締 役	藤 瀬 學
常 勤 監 査 役	吉 田 欽 一
監 査 役	豊 藏 亮
監 査 役	津 田 晃
監 査 役	伯 川 志 郎

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月下旬
同総会議決権行使株主確定日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日、9月30日、その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)
公告の方法	電子公告により当社ホームページ (http://www.torishima.co.jp) に掲載します。ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

WEBサイトのご案内

当社のWEBサイトでは、「企業情報」「IR情報」「最新ニュース」といった基本情報はもちろん、「製品情報」「CSRの取り組み」など、株主の皆様にご社のことを知っていただくための各種情報を発信しています。是非一度ご覧ください。

<http://www.torishima.co.jp>





株式会社 西島製作所

〒569-8660 大阪府高槻市宮田町一丁目1番8号
TEL 072-695-0551 (大代表)



この報告書を印刷する際の電力は
100%グリーン電力(風力)により
賄われています。